

JALANA決算について①営業収入・営業利益・経常利益・純利益の特徴について

(JAL退職者懇談会の世話人会学習会で一世話人が一般的分析手法に基づき、個人的見解として分析・解説したものです。)

5月30日の世話人会でJAL/ANAの決算と経営分析の勉強会を行いました。勉強会の内容をシリーズでホームページで紹介させていただきます。現役の皆様の参考にもなれば幸いです。勉強会の解説を行ったのは、世話人のお一人です。

**L/FのUPと低いB/E (JALは54.9%) が本業における利益を表す「営業利益」をはじめ各レベル段階利益で高利益を生み出しています。**

営業収入	JAL	1兆2,388億円	ANA	1兆4,836億円
営業利益	JAL	1,952億円	ANA	1,038億円
経常利益	JAL	1,859億円	ANA	770億円
純利益	JAL	1,716億円	ANA	431億円

FY2012 決算実績

	JAL	ANA	ANA比較 (JAL/ANA)
営業収入 (参考:単体数値)	12,388億円 (9,900億円)	14,836億円 (12,936億円)	0.83 (-2,448億円)
営業利益	1,952億円	1,038億円	1.88 (+914億円)
営業利益率	15.8%	7.0%	+8.8p
経常利益	1,859億円	770億円	2.41 (+1,089億円)
経常利益率	15.0%	5.2%	+9.8p
純利益	1,716億円	431億円	3.98 (+1,185億円)
純利益率	13.9%	2.9%	+11.0p

参考指標 (輸送実績)

	JAL	ANA	
国内線座席 LF	63.1%	62.1%	+1.0p
国際線座席 LF	76.1%	75.2%	+0.9p
内際計	70.3%	67.3%	+3.0p
参考 B/E	54.9%	60.8%	△5.9p

注:郵便貨物、手荷物は収支トントンとした場合の算出

参考:航空会社のB/E(損益分岐点)の求め方

(旅客費用÷有効座席キロ → 単位当たりコスト)を(旅客収入÷有償旅客キロ → イールド)で除して求められる。(簡便法)

なお厳密な意味でのA/LのB/Eの算定にはより詳細な諸元物量が必要なため、ここでは簡便法のみとした。

- 特徴1. 企業の事業規模を表す一般的指標としての収入規模ではJALはANAの83.5%弱だが、獲得利益額はいずれのレベルでもANAを大きく上回っている。
2. JAL収入は尖閣列島問題に絡む減収があったものの、前年の12,048億円に対し今年度は+2.8% (+340億円)の12,388億円となった。これの要因として
- 1) 単位あたり収入(イールド)は販売施策によりやや下がった(¥16.48→¥15.63)ものの座席LFのUP(内際計で66.9%→70.3%)が大きく収支を改善させている。
  - 2) LFのUPは提供座席数が前年の+3.3%に対し有償旅客数はそれを上回る+4.8%(173.5万人の増)の集客が主因。
  - 3) L/FとB/Eとの乖離が大きく(JAL<ANA共に)、JALはそれが一層顕著であること。
3. 営業収支レベルにおける費用効率がANAを大きく上回っている。
- 1) :営業収入に占める人件費を含む販管費率がANAの15.6%に対しJALは2.7%ポイント下回る12.9%に止まっている。
  - 2) 費用効率(営業収入/営業費用)で見るとANAは1.08に対しJALは1.19と10%強、JALの方が上回っている。  
例:¥1,000の投下費用で、ANAは¥1,080の収入に対しJALは¥1,190の収入を獲得してとの意。
4. 経常収支レベルでは、支払利息の減少が経常利益を大きく改善させている。(自己資本比率の大幅改善)  
例:支払利息(109億→32億)又、ANA比較では、ANAが180億に対しその約18%の32億に止まったことが主因。